ご自由にお持ちください

日本赤十字社 Japanese Red Cross Society 秦野赤十字病院

ぴーなっつうしん

Vol.15
2021.7

７月１日より当院に放射線科　明神和紀医師が常勤医師として赴任されました。患者さんと直接お会いする機会は少ないと思いますが、各部門からの依頼により、各種検査画像などから隠れた疾患を読み取るなど、その高い専門性により当院の縁の下の力持ちとなって下さる先生です。よろしくお願いします。

知っておきたい医療の知識　「前立腺がんの検診を受けましょう」

認定看護師から学ぶ　「人生会議(ACP)ってご存じですか？」

秦野市の特産品「ピーナッツ」の花言葉は、「仲良し・楽しみ」。生活に役立つ情報や当院の魅力などを提供し、地域の皆さんと病院とのコミュニケーションツールになる広報誌を目指します。

ＱＲコードを読み取ると、当院ホームページへアクセスでき、最新のお知らせをご確認いただけます。

認定看護師から学ぶ

人生会議(ACP)ってご存じですか？

みなさんはこれまでの人生を振り返り、人生の最終段階について考えたことはありますか。これからの自分らしい生き方について少し考えてみませんか。

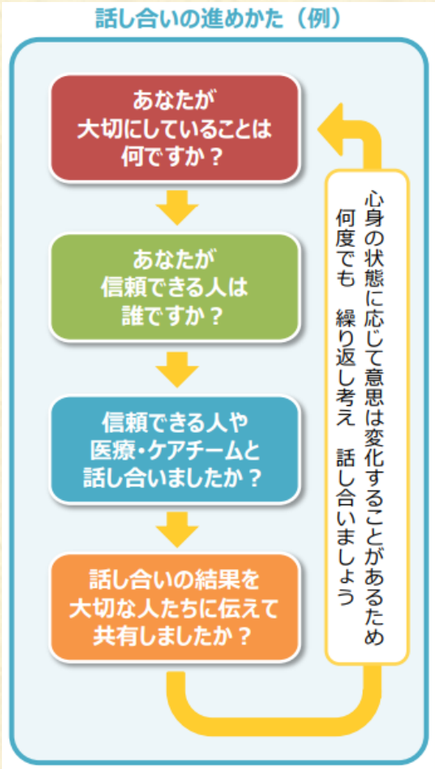
人生会議とは、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の愛称であり、２０１８年厚生労働省がACPをよりわかりやすく普及するために広く愛称を募集して公募で決定したものです。

人生会議（ACP）とは、もしもの時、最期まで自分の望む医療やケアを受けたり、生活をするために、あるいは望まない医療やケアを受けないために、どこでどのような医療やケアを望むかを前もって考え、身近な人と話し合っておくことをいいます。

自分自身の希望や価値観は、自分自身が望む生活や医療・ケアを受けるためにとても重要な役割を果たすものです。命に関わる大きな病気やケガをする可能性は、いつでも、誰にでもあります。命の危機が迫った状態になると、約７０％の方が医療やケアを自分で決めたり、望みを人に伝えたりすることが、出来なくなると言われています。もしも、自分がそのような状況になった時、家族など信頼できる人が「あなたなら、たぶん、こう考えるだろう」と自分自身の気持ちを想像しながら、医療・ケアチームと医療やケアについて話合いをすることになります。その場合にも、自分の信頼できる人が、自分の価値観や気持ちをよく知っていることが、重要な助けとなるのです。

「もしものとき」を「縁起でもないこと」と避けるのではなく、「いつしか誰しもやってくること」として考えることが大切です。自分が望む「人生における幕の下ろし方」を迎えられるように、そして自身や周りの大切な人たちが迷ったり、後悔をしないように、ということを考え、元気なうちから自分の考えを整理していくとよいでしょう。

人生会議（ACP）は、繰り返し話し合うプロセスが大切です。人の気持ちは、自身が置かれる状況においても変化するものです。その都度、自身の思いを大切な人と語ることがとても大切です。



厚生労働省「人生会議（ACP）普及・啓発リーフレット」より

緩和ケア認定看護師
室川　真由美

今月号の
秦野日赤人

知っておきたい医療の知識

前立腺がんの検診を受けましょう

前立腺がんとは？

前立腺は精嚢とともに男性の精液を作るための器官です。クルミぐらいの大きさで内部を尿道が通っています。前立腺は尿道を取り巻く内腺とその外側にある外腺に分かれます。長年男性ホルモンの影響を受けることにより内腺は肥大し内部を通る尿道を圧迫して狭くします。このため尿が通りにくくなるのが前立腺肥大症です。これに対して前立腺がんはその外側の外腺に生じます。前立腺肥大症が前立腺癌になると誤解している方も多いですが２つは全く別の疾患です。前立腺がんは40歳以下の方にはほとんど発生せず50歳以上で急増します。このため前立腺がん検診は50歳以上の男性に行われます。

前立腺がんは進行が遅いので放っておいても平気では？

がんには悪性度という指標があります。がんの振る舞いを予測することができ、悪性度が高いほど進行します。悪性度はグリソンスコアという数字で示されます。米国の研究では診断時60～64歳の前立腺がん患者のうち悪性度の高いグループでは5年で40％、10年で70％もの方ががんのため命を落としています。悪性度が中間のグループでも5年で20％、10年で40％もの方が命を落としてしまうのです。生命にかかわる「悪い」がんを早期に発見するためにはがん検診が必要なのです。

前立腺がん検診ではどんなことをするの？

実は前立腺に限らずがんの診断のためには、体の組織を顕微鏡で見て調べる病理検査が絶対に必要です。採血による腫瘍マーカーやCT、MRI、PET-CTなどの画像診断はあくまでも状況証拠に過ぎずそれだけでがんと診断することができません。しかし全員が入院して検査を受けるのは現実的ではありません。病理検査を受けるべき人を2段階の検査で絞りこんでいきます。

2段階の検査とは？

それはPSAという腫瘍マーカーによる一次検診と泌尿器科医が行う二次検診です。初めに対象者全員に行う検査はPSA検診です。PSA（前立腺特異抗原）というマーカーを用いた検査です。PSAはもともと精液の中に含まれている物質で前立腺で作られます。このPSAが血液中に沢山漏出している場合は前立腺が「壊れている」ことがわかります。がんも組織の正常構造が壊れる病気なので、PSAが高い人の中に前立腺がんの人が含まれているのです。PSAが高値であった方には泌尿器科医による二次検診が必要です。PSAは4ng/ml未満が正常とされますが、4～10ng/mlの軽度高値（グレーゾーン）では前立腺がんは20～30％に過ぎないことがわかっています。二次検診では、PSAの再検査、直腸診、超音波検査、生活歴や家族歴を調べ、病理検査を受けるべき人を選別します。二次検診で選別された方の前立腺がんの率は50％を超えます。

ブルークローバーキャンペーン

NPO法人『前立腺がん啓発推進実行委員会』による PSA検査の普及と前立腺がんに対する正しい知識を啓発する活動

病理検査を受けたらどうなるの？

PSAが4～10ng/mlの軽度高値（グレーゾーン）で発見された方はほとんどが転移のない早期がんです。病理検査により進行する恐れのある「悪いがん」は手術や放射線により根治することができます。当院でも2020年度の1年間で41名もの方を腹腔鏡手術により根治することができました。放射線やその他の治療を希望される方は専門施設へのご紹介により根治することができております。

病理検査でがんが発見されなかったり、病理検査するほどでないときはどうするの？

泌尿器科医による継続的なチェックが必要です。PSAが高値である限り、その方は前立腺がんの高リスク群となります。PSAが長期間高値であったり、徐々に増加したり、直腸診や超音波所見で異常が出現した場合は病理検査に移行します。適切なタイミングは専門医でないと判断できません。当院は秦野市内で唯一専門医4人を擁し、検査から治療までを一貫して行うことができる施設です。高リスクの方の検診も継続して行っておりますので前立腺のことはどうぞ当院にお任せください。

◎PSA検診は、市の検診、職場検診、人間ドックで受けることができます。

泌尿器科部長
うえき　ていいちろう
植木　貞一郎
〈資格・所属学会〉
日本泌尿器科学会指導医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
日本登山医学会認定国際山岳医

泌尿器科医師
はしづめ　あきひと
橋爪　章仁
〈資格・所属学会〉
日本泌尿器科学会専門医
緩和ケア研修会（神奈川県立がんセンター）修了
泌尿器腹腔鏡技術認定医
泌尿器ロボット支援手術プロクター

泌尿器科医師
かさはら　りょう
笠原　亮
〈資格・所属学会〉
日本泌尿器科学会専門医
緩和ケア研修会
（横浜市立大学付属病院）修了

泌尿器科医師
やまざき　まさのぶ
山﨑　将頌
〈資格・所属学会〉
日本泌尿器科学会
日本泌尿器内視鏡学会